

# 分析作業者の育成・確保に向けた取組について

令和4年12月19日  
資源エネルギー庁

新たに設立された福島国際研究教育機構における廃炉関連人材の育成事業の一環として、本年11月より、分析作業者の育成カリキュラムの作成事業を開始。

2023年度以降、同カリキュラムを用いた分析作業者の育成を開始できるよう準備を進める。

## 1. 育成の対象

今後、廃炉作業が進むにつれ、固体試料(各種廃棄物や燃料デブリなど)の分析の割合が増えてくることから、前処理の作業量が増加することが予想される。

JAEAは分析施設を立ち上げ、東京電力では総合分析施設を立ち上げて対応するべく、準備を進めているが、これまでの福島第一原発構内での分析は、海水や地下水、汚染水処理系統水などの液体試料が主であったため、固体試料の前処理を経験した分析作業者が少ない。

このため、固体試料の前処理を経験できる場を設けることで分析作業者の知識・経験レベルの底上げを狙い、福島第一原発の分析事業に関わる企業・研究所の分析作業者を育成の対象とする。

## 2. 今後の進め方について

- 今年度中に『放射能分析の人材育成カリキュラム』を作成し、来年度から同カリキュラムを用いた分析人材育成事業を福島国際研究教育機構において開始できるよう準備を進める。
- 年間数十人から百人程度の分析作業者を受け入れられる研修・講義を行うことを念頭に事業計画を検討中。
- 本事業で作成したカリキュラムについては、地元の高専などにおける活用もあわせて検討する。